



尾道市の小児の救急医療の変遷

一次救急: 軽症患者(外来治療・帰宅可能)に対する救急医療
 二次救急: 中等症患者(入院治療を要する)に対する救急医療
 三次救急: 重症患者(集中治療を要する)に対する救急医療

- 1983年 尾道市立夜間救急診療所小児科開設(一次救急)
JA尾道総合病院(二次救急+一次救急)
- 2003年 JA尾道総合病院が小児救急拠点病院(二次救急医療を24時間体制で行う)に指定
- 2011年3月~2013年3月 福山市小児二次救急輪番の空白日
- 2013年7月 尾道市立夜間救急診療所小児科が休診



- JA尾道総合病院が一次+二次救急を担う
- 2013年9月 尾道市医師会小児科医会(開業医)の協力体制「地域連携小児夜間・休日診療」

これまでの小児救急医療問題

- 保護者は、いつでも、どこでも、質の高い小児科専門医による医療を求めている
- これに対応できる小児救急医療体制は一部の地域(特に地方)では未整備なため、保護者の不安が強い
- 救急医療を行っている一部の施設に患者が集中する
- 少数の小児科医で当直せざるを得ず、病院勤務の小児科医が疲弊する

小児救急医療の集約化

広島県一次救急医療体制: 休日夜間急患センター

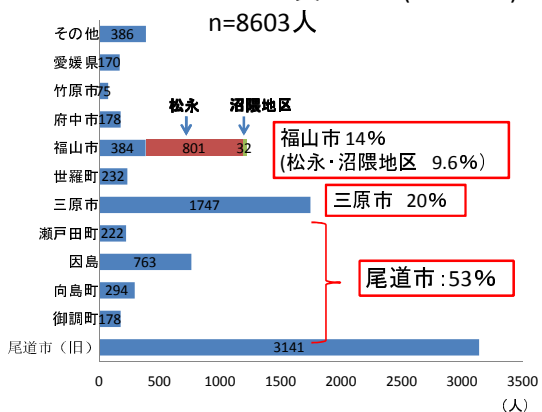


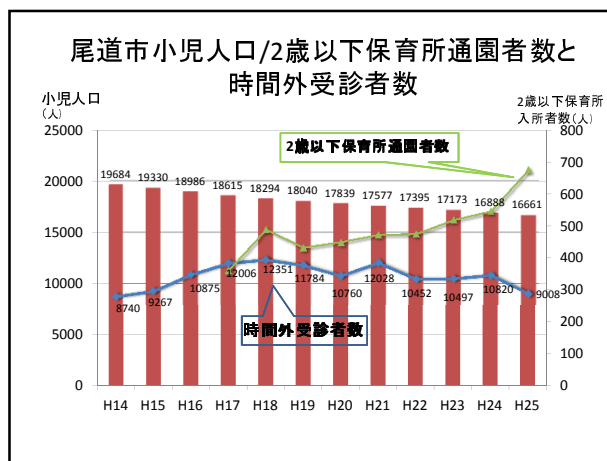
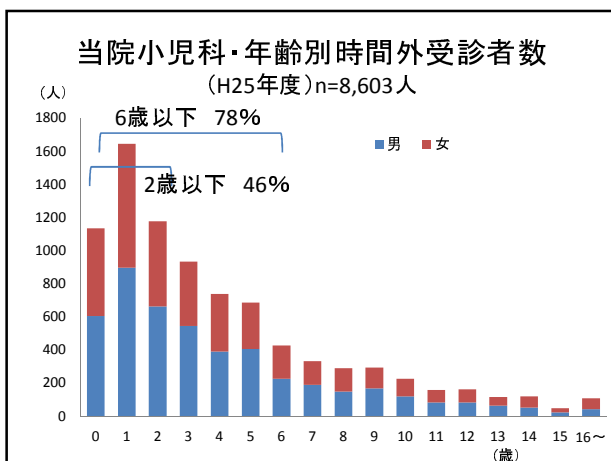
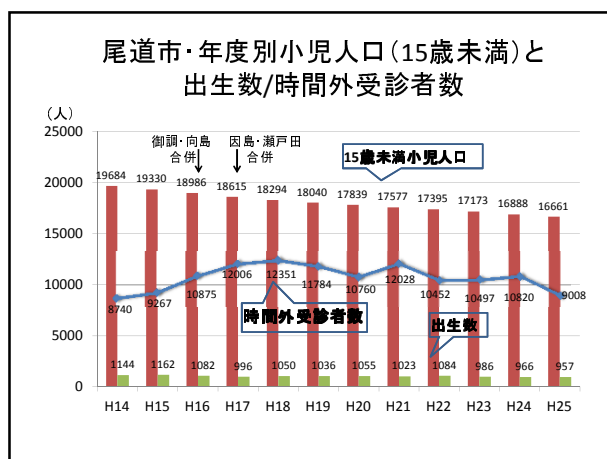
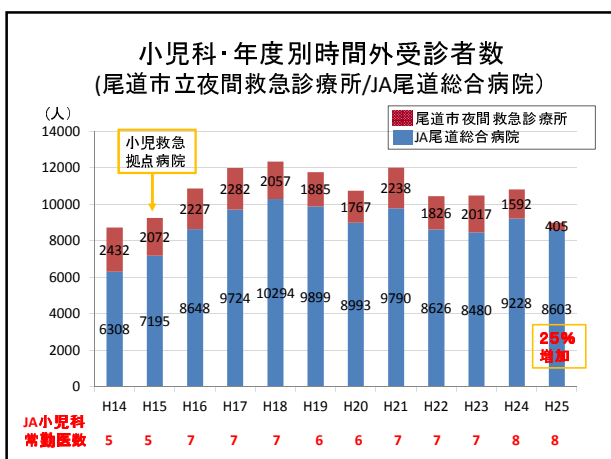
広島県の二次小児救急医療体制

二次救急医療(主に入院を要する患者の診療)+深夜の一次救急医療



小児科救急外来・地域別受診者数(H25年度)





小児救急医療の問題点

- 小児救急患者が多い
子どもは急な発熱など、急患の発生頻度が高い
- 小児科医不足
病院勤務の小児科医の減少(特に山間部・島しょ部)
- 小児医療の不採算
入院需要が少ない、入院期間が短い、一人当たりの医療費が少ない
⇒小児科の縮小・廃止
- 子育てにやさしい社会体制が構築されていない
働いている保護者は子どもが病気の際仕事を休むことができない。子どもが病気の際に支援してくれる人がいない。⇒仕事が終わって救急外来を受診

安心できる小児救急医療体制のために

- 医療者側
医療体制の整備、小児科医不足の解消
医師間の救急医療相談システムの構築
- 行政
子育てしやすい社会体制
地域の子育て協力支援体制
- 受診者側
家庭看護力の向上

みんなでできること・お願い

- いざという時にあわてないように、普段から応急手当について学んでおきましょう。
- 急病の際受診すべきかどうかの判断ができるように、準備しておきましょう。
- かかりつけ医をもち、なるべく診療時間内に医療機関を受診しましょう。